

IPM実践指標(ナシ)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄			
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	間伐	縮・間伐により病害虫が発生しにくい環境を作る。				
	せん定	樹冠内部の通風・採光を良好にし、病害虫が発生しにくい環境を作るとともに、薬液散布における付着の死角をなくす。				
	病害発生源の除去	病害が発生した枝(輪紋病、胴枯病等)、葉・果実(黒星病等)は除去する。				
	残さの処理	せん定くずや落葉、落果はほ場外に持ち出し、適切に処分する。				
	病害虫・雑草の発生源の除去	除草	ハダニ類の発生源となる園内の下草は早目に除草する。			
		粗皮削り	カイガラムシ類、ナシヒメシクイ、ハダニ類等は樹皮下で越冬するので、冬期に粗皮剥ぎを実施する。			
		中間宿主の除去	赤星病はナシとビャクシン類との間に寄生輪廻を行うため、周囲約1km以内のビャクシン類を伐採する。			
	雑草適期管理	種子で増殖する雑草の発生を少なくするために、結実前に除草を実施する。				
	施肥	有機物の投入	有機質を適切に施用し、樹勢・根活性を良好に保ち、病害の発生しにくい樹体にする。			
		適切な肥培管理	窒素過多による軟弱徒長枝は病気が発生しやすいので、適切な肥培管理をする。			
	摘果	心腐れ症が発生しやすい上向き果は摘果する。				
	新梢管理	枝梢の遅伸びや二次伸長をしない栽培管理を行い、病害の発生しにくい樹づくりをする。				
	防風対策	風傷の発生を少なくし病害の発生を抑えるために防風対策(防風樹、防風ネット等)を講じる。				
	収穫、貯蔵時における果実の適正措置	果実は適熟果を適期に収穫し、調製時及び保管庫内では果実を丁寧に扱う。				
健全な苗木・穂木の使用	新植及び改植時には無病苗木を植え付ける。接木時には無病穂木を使用する。					
紋羽病対策	改植更新の場合は前作の被害根の処分を完全に行う。					

IPM実践指標(ナシ)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄			
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
判断	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や普及指導センター等が出す病害虫に関する情報を入手し、発生状況を確認する				
	気象状況の把握	気象情報を把握し、適切に防除を実施する。				
	病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。				
	ビャクシン類上の冬孢子堆の状況の把握	冬孢子堆の膨潤状況を予察情報や近隣のビャクシン類で確認し、適期防除を実施する。				
	生育状況の把握	開花前後は黒星病の最重要防除時期なので、散布適期を逸さないように、生育状況を把握する。				
	雑草の発生状況の把握	果樹園及びその周辺に発生している雑草の草種と発生量を観察及び確認する。				
防除	生物防除 子ヨウ目幼虫	生物農薬の使用 若齢幼虫を対象にBT剤を利用する。				
	物理防除 ヤガ類	防蛾灯または防災網の使用 防蛾灯または防災網を園内に設置して、ヤガ類等からの被害を防ぐ。				
	化学防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。			
		適正な散布方法	散布ムラがないよう、適切な散布量で散布する。特に、SSの場合は適切な速度、間隔で走行する。			
		剤の選択	薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。			
			天敵に影響の少ない薬剤を選択する。			
	化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある剤を組み入れる。					
	除草剤を使用する場合は雑草の発生状況や草種を確認し、適切な剤を選定する。					
	農薬飛散防止対策	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。				
	ナシヒメシンクイ等	交信かく乱剤の使用 交信かく乱剤を園内に設置して、ナシヒメシンクイ等からの被害を防ぐ。				
増殖源の防除	ナシヒメシンクイの増殖源対策として、園の周囲のバラ科植物(ウメ、モモ、サクラ等)も防除する。					
秋期防除の徹底	10～11月のりん片感染を防ぐため収穫後(10月中旬から11月上旬)の黒星病防除を徹底する。					
散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。					
その他	土壌の流亡防止対策	のり面の保守、草生栽培などによって土壌流亡の防止に努める。				
	作業日誌の記帳	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。				
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。				